

石巻・雄勝町の有線放送

社会貢献学会から贈られた有線放送設備に喜び合う被災者。宮城県石巻市雄勝町で10日

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市雄勝町で、生活情報を伝える有線放送が復旧した。津波で流されたが、防災・減災を研究する学者や企業などでつくる「社会貢献学会」（事務局・神戸学院大）が自治体に代わって整備し、同日で10日、復旧を祝う式典があった。集落の再起を目指す住民同士を結ぶ手段として力を発揮しようだ。

【桜井由紀治、写真も】

「今日は有線放送復旧してしたが、約1200人の式典があります。0世帯の住宅が津波で感動の気持ちを伝えましょ」。同町水浜地区でこの日朝、スピーカーから流れる放送が響き渡った。26世帯が暮らす仮設住宅の談話室に放送局を設置。集落に点在する他の17世帯にも伝わるようスピーカー1計5基を備えた。住民らに行事や集会などの情報を知らせる。

リアス式の入り江に小集落が張り付く同町は、震災前に1637世帯4300人が暮ら

元兵庫県副知事で阪神大震災（1995年）からの復興を指揮した高藤富雄・同学会副会

「社会貢献学会」が費用負担



長が市に復旧を掛け合ったが、「他地域との不公平につながる」と認められなかった。このため、同学会が4月に有線を設置し、会員の「信和建設」（大坂市淀川区、前田裕幸社長）が費用約130万円を負担した。式典には、住民約20人が参加した。自治会長の秋山喜弘さん（65）は「支援の一つ」が地域住民の結びつきと復興の意欲を強めてくれる、ついすみかにかいつ移れるのか分からないが、有線を使って住民同士仲良く頑張っていきたい」と話した。